

平成27年度防衛大学校卒業式 来賓代表祝辞

本日、防衛大学校を卒業される皆さま、また理工学研究科、総合安全保障研究科の課程を修了された皆さま、まことにおめでとございます。その御家族関係者の方々にも、心より御祝いを申し上げます。また本日は、私もこの栄えある卒業式に御招きを頂き、皆さまに祝辞を申し上げる機会を与えられましたことを、まことに有りがたく存じております。

さて本日防衛大学校を卒業される皆様はこれから陸海空それぞれの幹部候補生学校に進まれ、そこで一般大学卒業者とともに学ばれた後に幹部自衛官としての道を進まれるわけであり、私はいま大学の学長をしておりますけれども、もともと労働経済学という労働市場や雇用の問題を研究する仕事をしておりまして、今日はその労働経済学の視点から幹部自衛官という仕事の持っている特性について、少しお話をさせて頂きたいと思っております。

結論を先に申しますと幹部自衛官は「買うことのできない人材」ということになります。

ご承知のとおり企業等の民間組織はその組織を担う幹部職員について、それを組織内で手塩をかけて育成するか、あるいは外部から出来上がった人材をスカウトするかという選択肢があります。労働経済学の用語ではこれを「Make or Buy」と申しまして、まさに「育てる」か、「買う」か、という選択です。どちらを選択するかは業種や企業規模などにもより、最終的には個別企業の人材戦略によるところもありますが、最近では日本でも大企業のトップを外からスカウトするといったことが見られるようになりました。

しかし自衛隊に限って言えば、そのトップの幕僚長をどこか外からスカウトするということとはあり得ないわけですし、また連隊長、艦長、航空隊長といったポストを公募することもありません。これは自衛隊に限らず、あらゆる近代国家の軍事組織に共通のことです。

つまり自衛隊の幹部あるいは外国軍隊でもその士官たちは、軍学校や大学から初級幹部として入隊し、その中で教育を受け、育てられた者によって占められています。それは軍事組織、とくに高度な近代軍事組織の指揮、運用といった仕事は、その組織の外にその能力を持った人材を求めることができないからであります。つまり、高度な軍事組織の幹部は、「その組織の外から買うことのできない」人材なのです。

自衛隊の使命は万が一の有事において国民の生命財産を守るために外敵と戦うことであると思っておりますが、そのためにもそれを担う人材を組織内でしっかりと育成していくことが不可欠なわけです。自衛隊は防衛を担う組織であると同時に教育機関であり、皆さま幹部自衛官には教育者としての役割も大きく期待されていると思っております。

さてそうした「買うことのできない人材」である幹部自衛官に対して私たち国民はどのように報いるべきでしょうか。買うことのできなものを英語では「Priceless」と申しますが、これはもちろん値段が無い、「タダ」ということではありません。値段をつけることができないほど価値があるという意味であり、財政の制約などありますが、できる限りきちんとした待遇で報いるべきであります。

もちろん自衛官や多くの公務員の方々には、報酬のためではなく、国家、国民のために貢献したい、と言った志をもってその仕事を選ばれていると思っております。民間に行く道もあったであろう有為な人材が、あえて国家、国民のために尽くそうとされるわけであり、そうした有為な人材の志を、国民の側から高く評価しているということを示すためにも、それに相応しい待遇で報いることが重要です。労働経済学的な視点からはそのように結論付けること

ができます。

同時に国民はお金では買うことのできない人材である幹部自衛官に対して、文字通り非金銭的な形でも敬意を示すべきであります。多くの国で軍人、公務員に勲章等を手厚く授与しているのもこのためです。そして実は、幹部自衛官にならんとする皆さんへの国民の敬意を示すもっとも象徴的なことが、この卒業式に内閣総理大臣が御臨席になっていることではないでしょうか。

日本中の大学で、卒業式に毎年総理が出席されるというのは、この防衛大学校以外には無いと思いますが、それはまさにどこからも買うことのできない人材となられる皆さまの卒業式であるからこそ、であります。総理は先ほど自衛隊の最高指揮官として訓示をされましたが、同時にそれは、私共国民を代表して皆さまに敬意を表して下さったものと、思っております。そうした崇高な職務に就かれようとする皆さまに改めて感謝の気持ちを込めまして、その輝かしい前途を祝し、お祝いの言葉と致します。本日はまことにおめでとございまいた。

平成28年3月21日

来賓代表 清家 篤